



# 本部町各字老人会(並里、野原、谷茶)

**住所** 国頭郡本部町東5 **TEL** 0980-47-2165(本部町 福祉課老人福祉班)

**カテゴリ** 健康・福祉

## ヤギの飼育で、高齢者の健康づくり!

本部町の各字老人会では、高齢者の健康増進・介護予防の観点からヒージャー(=ヤギ)の飼育に取り組んでいる。町の農福連携健康づくり交流事業の一環で、ヤギ舎の整備と雌ヤギ2頭が無償譲渡されるというもの。

2020年に2か所、2021年には1か所で始まっているが、予算(補助金)の都合がつけば、希望する地区での飼育が可能になるという。そのため、今後も手をあげる地区があれば、さらなる広がりを見せそうだ。

2020年11月からこの事業に取り組む谷茶地区では、ヤギの出産などもあって地域話題を集めている。公民館前の谷茶公園に設置されたヤギ舎には、現在4匹の親ヤギと1匹の子ヤギが飼育され、土日は家族連れが様子を見に来るなど、賑わいをみせる。

ヤギの世話は、5名ほどの高齢者が担当の曜日を決めるなどして順番に行っているが、皆楽しみながら取り組

んでいるという。外に出てお互い会う機会も増えるため生活にハリが出る上、掃除等で身体を動かすことがちょうどいい運動にもなっている。地域の若い方や消防団もボランティアで草刈りに参加するなど、世代間交流の場としても機能しているようだ。

区長の宇根さんは「みんなのペットとして可愛がっている。毎年のように子ヤギも産まれるので、近くに来た際には是非見に来て下さいね。」とにこやかに話す。

今後は、子どもたちにもヤギにまつわる産業・食文化を伝え、畜産振興にもつなげたい考えだ。ヤギの飼育を通して、子どもから高齢者まで地域が一つになっていく、心あたたまる活動がそこにはあった。



## にぬふあぶし

**カテゴリ** 環境保全/子どもの健全育成/地域の魅力発見/文化・伝統継承/観光・地域交流

## 地域の自然を楽しんで。親子で参加するワークショップ開催!

代表の仲間さんは、あまり外で遊ばなくなった近所の子供たち、自然と触れ合う場を作りたいという思いを持っていた。そこで、地域の素晴らしい自然を子にも親にも体験してもらえるようなワークショップを企画。仲間さんの人脈も含め、地域の中で得意分野を持つ人等に協力を仰ぎ、テーマを設定し、講師も務めてもらうことに。

2018年から宜野湾市地域づくり推進事業基金の助成を受け、「ましきわくわく!まちたんけん」として、ワークショップをはじめ、出前講座、防災まつりを開催。真志喜地域を中心に伝統文化や自然を体験し、地域の方々との交流を深めながら、親子で一緒に“歩き、学び、つくる”事業。

3年目の開催となった2020年のワークショップは、「リュウキュウツミの観察会」「クバの葉を楽しもう」等を

テーマに5回の開催。参加者から、「身近な場所に興味がわき、親子で楽しく散歩できるようになった。」「自然からは、色んなことを楽しく学べるということがわかった。」との感想の声寄せられた。

出前講座「しめ飾りをつくろう」では、華やかなしめ飾りを完成させ、防災まつりでは、「地域の方々顔を合わせる機会こそが、防災の基本という学びもありました。」という大切な気づきもあった。

自治会や学校、地域のボランティア団体、行政、大学など多様な組織と連携し、地域に目を向けるきっかけとなったこの活動は、今後も様々な団体と連携・情報交換等しながら継続していく予定とのこと。



# 広報人材育成プロジェクト実行委員会

住所 宜野湾市喜友名1039 2階

TEL 098-943-0094

カテゴリ 地域の魅力発見

## 広報活動を活発にすることで、地域の情報発信力を高めたい

同じ宜野湾市で開催された、地域の課題を発見し解決策を考える「地域コーディネーター養成講座」の参加者から、市内の広報力が弱いとの声があがり、広報に長けた人材を育成していこうとの話から「広報人材育成プロジェクト」事業が展開されることとなった。

広報技能やツールを習得した人材が増えることによって、市内各地での広報活動を活発にし、地域の情報発信に繋がりたいとの思いから、広報にまつわる講座を5回にわたり開催。YouTubeやZoomの仕組みを知り、効果的に活用するための集客方法や周知方法を講習する「動画活用講座」や、現役新聞記者から事実を伝える文章構成や記事の書き方、印象的な写真の撮り方を学ぶ「市民ライター講座」など、各回20～30名ほどの参加があった。

新型コロナウイルスの影響で急遽オンラインでの開

催となったが、受講生の年齢層は23歳～67歳と幅広く、職種も学生や個人事業主、市議会議員、観光関係など多岐にわたり、受講後、積極的に広報活動を行う受講生が増加。動画を活用した広報を行う自営業の方や、YouTubeチャンネルを作った福祉事業者の職員も出てきて、自治会広報に新たにSNSや動画を取り入れるという大きな動きもあったのだそう。

事業は自治会や社会福祉協議会と連携して実施しており、今後も、これまでの受講生を対象に勉強会を開催予定。宜野湾市で広報委員会を組織することで、地域の情報発信力をより高めていきたいとの考えだ。引き続き、これらの活動に注目していきたい。



# うるま市比嘉区自治会

住所 うるま市勝連比嘉125

TEL 098-977-7227

カテゴリ 地産地消・食育

## 耕作放棄地が花畑に変わり、ジャガイモや玉ねぎの収穫も！

地域の耕作放棄地を有効活用したい、そして、農業に関心を持ってもらうことで担い手不足を解消したい、との思いから、2017年より県のふるさと農村活性化基金事業を受諾。年間100万円(事業開始時は、50万円/年)の補助を得て、耕作放棄地を伐開しコスモスやヒマワリの種を植え、野菜作りにも取り組むという活動が始まった。

まずは水の確保からということで、自治会が中心となって井戸を掘り、それぞれが責任を持って管理できるよう農地を個人に振り分けた。自分の担当となるとやはり気になるようで、こまめに畑に出向き、丹精こめて世話をする姿があちこちで見られたという。

地域で元々農業を営んでいた方からのアドバイスやサポートもあり、収穫時期には無事、ゴロリとした美味しそうなジャガイモや玉ねぎ、にんじんが獲れた。老人会や婦人会、子供会、青年会など多くの人たちが参加した収穫祭では、野菜たっぷりのカ

レーが振舞われ、皆で美味しくいただいた。青空のもと会話も弾み、地域コミュニティの活性化にも繋がったそうだ。また、コスモスやヒマワリは地域の環境美化だけでなく、農村景観が向上し「神の島」とも呼ばれる浜比嘉島へ訪れる観光客を喜ばせているとのこと。

今後は、5年間の事業が切れた後もいかに活動を継続していくかがポイントになってくるが、別の補助事業を探してみる、もしくは自主財源の捻出方法を考えてみる等、検討の必要があるのだという。

耕作放棄地を解消し、農業への関心を高めてもらうことには引き続き力を入れながら、子どもたちが食の大切さを学ぶ場にもしていけたら、よりよい地域づくりに繋がっていくのではないだろうか。

